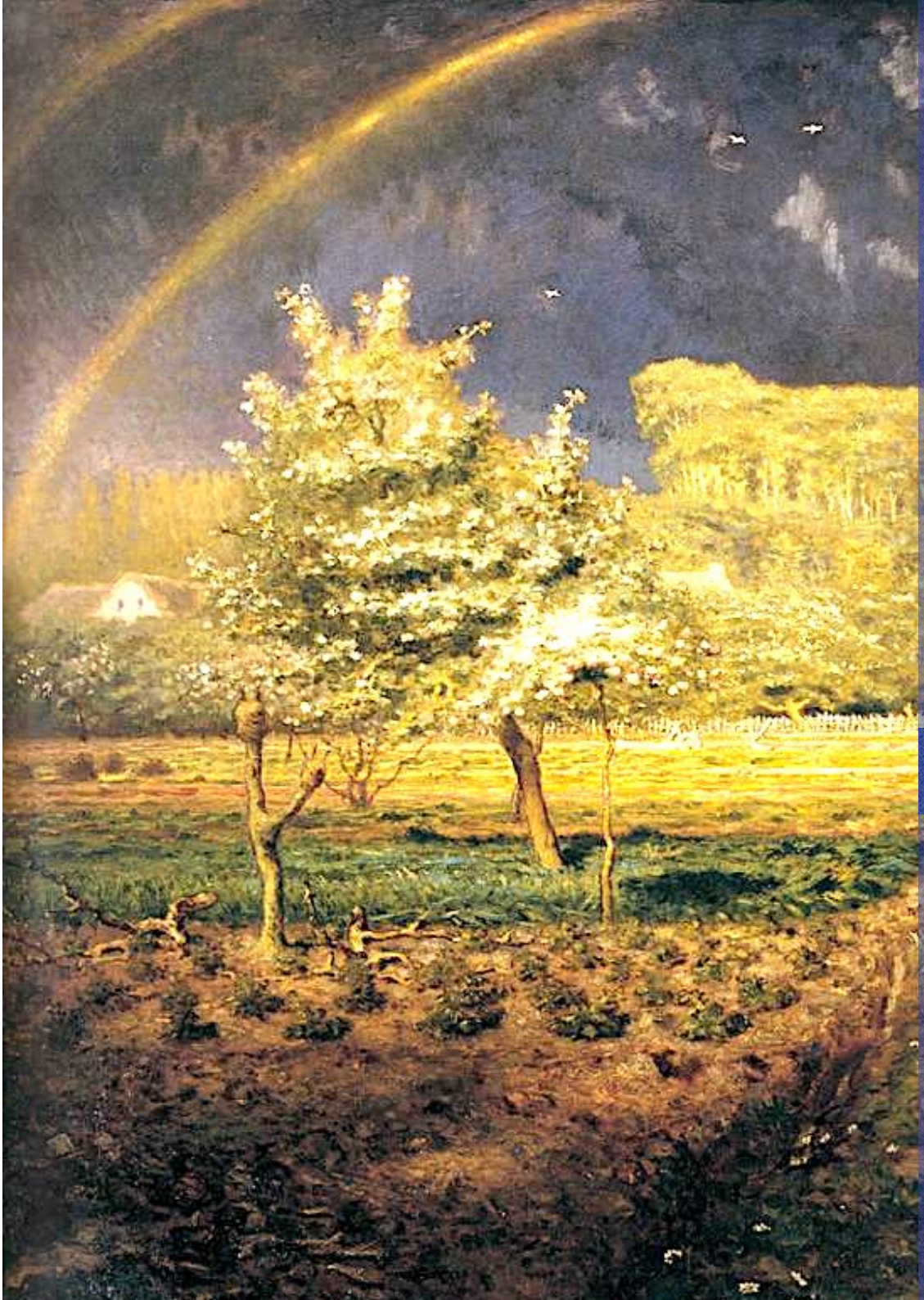


【連続公開セミナー@立教大学】

岩波文庫から刊行中の吉川一義氏による

新訳で プルーストを 読破する 8

第8回「ソドムとゴモラ Ⅰ」

2018年12月1日（土）14:00-16:00

立教大学池袋キャンパス　10号館X204教室

講師　**野崎 歓** 氏（東京大学教授）

司会　坂本 浩也（立教大学教授）

主催　立教大学文学部文学科

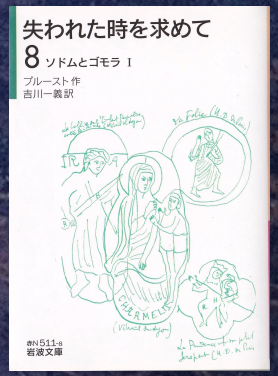
問合せ先　学部事務1課（03-3985-3392）

proust.rikkyo@gmail.com

Twitter @proust_rikkyo

申込不要・入場無料、定員140名（先着順）。

テキスト（プルースト作・吉川一義訳『失われた時を求めて』第8巻「ソドムとゴモラ　Ⅰ」岩波文庫、2015年）を通読して、ご持参ください。



ネルヴァルと現代文学のあいだで

公開セミナー「新訳でプルーストを読破する」第8回
講師紹介

野崎 歓（のざき・かん）氏

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授。

専門はフランス文学・映画論。現代小説の翻訳でも知られる。『ジャン・ルノワール　越境する映画』でサントリー学芸賞、『赤ちゃん教育』で講談社エッセイ賞、『異邦の香り——ネルヴァル「東方紀行」論』で読売文学賞を受賞。著訳書多数。近著に『水の匂いがするようだ——井伏鱒二のほうへ』。

プルーストが偉大な先駆者とみなした19世紀の詩人ネルヴァルの専門家であり、トゥーサンやウエルベックをはじめとする現代小説の名訳者である野崎歓氏がこれまで『失われた時を求めて』について論じた文章の抜粋をいくつかご紹介します。

「ではプルーストの、一度その門をくぐってしまえば出てくる気になれないほどの面白さの理由はいったいなにか。あえて単純に答えてみよう。それは彼の長編が**ひたすら「あこがれ」の思いに染め上げられ、ロマンチックで情熱的な、欲望と誘惑にみちあふれた物語を紡ぎ出している**からではないだろうか。」

☞「「あこがれ」のプルースト」
『われわれはみな外国人である——翻訳文学という日本文学』五柳書院

「記憶をめぐる劇がつねに具体物を出発点とし、また具体物に凝縮された形で提示されるところにプルースト的体験の大きな特色がある。プルーストと同時代に「超現実」を求めて彷徨したシュルレアリストたちの場合にも似て、**「心の間歇」はオブジェをめぐる冒険である。**［…］一時は総題として考えられていた「心の間歇」は結局、『ソドムとゴモラ』中の挿話のタイトルとなった。［…］これは『失われた時』全体の冒頭から［…］**語り手のみならず読者にとってもかけがえのない存在となっていた人物に捧げられる最後の重要な一節**であり、深い感動なしには読めない箇所である。」

☞「夢うつつの詩学——ネルヴァルからプルーストへ」
『フランス小説の扉』白水Uブックス

「三島由紀夫はかつて、プルーストにおいては恋愛が「病気と同じ」ものとして「非常に悲観的に書かれて」いることを指摘し、その極端さを批判した。なるほど、プルーストは恋愛を主観的幻想の上に、錯覚を糧として花開くものとしてとらえているし、それが恋する者に——とりわけ恋愛と表裏一体をなす嫉妬の苦しみによって——及ぼす破壊的作用を「腫瘍」にたとえたり、「モルヒネ」の禁断症状にたとえたりもしている。しかしながら、親に愛され、周囲の大人たちに護られていることの揺るぎない感覚ゆえに、**プルーストの作品はその根幹においてくもりない明るさ、晴れやかさを備えている**ように思えるのだ。／大長編のそうした側面を具現するのは、ある意味では母親以上に、同居している母方の祖母と「私」の関係である。」

☞『フランス文学と愛』講談社現代新書

全14回のゲストとスケジュール（予定＊）

毎回ゲスト講師をお招きしますが、プルースト研究の専門家にとどまらないのが、この企画の特色です。

学術的な知見を紹介するだけでなく、ゲスト個人の思い入れのある場面や登場人物をとりあげて、「誤読」や「妄想」的な解釈をおそれずに、プルーストの読みどころを語っていただきます。

①	吉川一義氏	（京都大学名誉教授）	2017/10/21
②	工藤庸子氏	（東京大学名誉教授）	2017/12/9
③	石橋正孝氏	（立教大学助教）	2018/2/17
④	湯沢英彦氏	（明治学院大学教授）	2018/4/28
⑤	根本美作子氏	（明治大学教授）	2018/6/23
⑥	阿部公彦氏	（東京大学教授）	2018/8/25
⑦	高楼方子氏	（作家）	2018/10/6
⑧	野崎歓氏	（東京大学教授）	2018/12/1
⑨	青山七恵氏	（作家）	2019/1/19
⑩	小黒昌文氏	（駒澤大学准教授）	2019/3/2
⑪	青柳いづみこ氏	（ピアニスト、文筆家）	2019/4
⑫	中野知律氏	（一橋大学教授）	2019/6
⑬	柴崎友香氏	（作家）	2019/8
⑭	吉川一義氏	（京都大学名誉教授）	2019/10

＊諸事情により変更する場合があります。時間・教室とあわせ、Twitterや立教大学HPでご確認ください。

（司会：坂本浩也）

本研究は、JSPS 科研費 JP 18K00490 の助成を受けています。